

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4090100167		
法人名	有限会社田代総合サービス		
事業所名	グループホームきずな		
所在地	福岡県北九州市門司区吉志1丁目41番1号 (電話) 093-483-1501		
自己評価作成日	令和 3 年 7 月 3 日	評価結果確定日	令和 3 年 9 月 9 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所の理念である利用者様一人一人の想いを尊重し、利用者様がやりたい時にやりたいことができる環境づくりに力を入れています。また、場所が、閑静な住宅地であり、車の往来も少なく、畑や木々に囲まれ毎日、のどかに過しています。施設特有のにおいの無い空間であるよう環境整備を行い、利用者様と共に作成した制作物の展示をし季節感を感じて頂いています。利用者様の居室は、今まで自宅で愛用してきた家具や、生活用具を設置していただき、極力自宅と同じような空間を作り、安心して生活ができる様に取り組んでいます。職員に置いては、定期的に勉強会や研修会に参加し認知症に対する知識と技術を高め、日々の介護に生かせるよう努力しています。職員と利用者様が家族のように毎日を穏やかに過しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	-------------------------------------------------------------------------

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 3 年 7 月 21 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は閑静な住宅地で、公園や畑があり、散歩の際は地域住民と声を掛け合うなど交流が持てる環境となっている。地域住民から花やメダカなど差し入れをいただくこともあり、良好な関係を築いている。  
職員は理念に基づき、利用者がやりたいことをやりたいときに実現できるように、日常生活の支援に取り組んでいる。特に、季節のイベントや外出企画、畑仕事などに力を入れ、利用者が生き生きと生活できるように支援している。

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の利用者様のやりたい時にやりたい事や思いを理解する介護。また、身体拘束を行わず地域活動に積極的に参加する理念を挙げ実践できるように日々努力している。	法人理念に基づき、事業所として4つの理念を掲げている。全体会議で討論会の機会を設けて理念の共有を図ったり、各ユニットの職場会議やケースカンファレンスの中で、管理者が周知を行うなど実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前は近隣の中学校との交流や近所の方々との挨拶をはじめギター演奏、歌のボランティアの方達に来て頂いたりしていたが、コロナ禍においては感染防止に配慮し地域交流センターの文化祭に出展するなどの交流を図っている。また、感染防止に配慮したうえでバンド演奏など施設に招いているが、かなり交流は減っている。	自治会に加入している。職員も地域での様々なイベントに参加している。事業所主催の行事も感染対策を行いながら開催し、地域との結びつきを保っている。その他、中学生の福祉体験受入れなどを行っている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為窓越しではあるが、ご家族の面会時には現状をお伝えし、認知症の人の理解や支援を行って頂くようコミュニケーションを図っている。さらに面会に来れないご家族向けにブログにご利用者様の写真を載せるなどして元気な姿を見て頂いている。また、認知症の方にもできること知って頂くため、制作物などを地域の文化祭に展示したり、地域交流センターの写真コンテストなどに参加したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催のため、二か月間の状況報告と、対応に困っている事などを相談し意見やアドバイスをもらいサービスの向上に努めている。また、地域の方を取り込むにはどうすればいいか等、アドバイスをもらっている。緊急事態宣言が解除になった月にはご家族の参加やご利用者様の参加も実施できていた。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催しており、利用者、家族、市保健福祉課、地域包括支援センター職員、事業所職員が参加している。事業所の活動報告や日常の困りごとについて話し合いが行われている。地域住民の参加がないため、今後、民生委員などの参加を検討している。	地域住民の代表や民生委員など地域住民の参加により運営推進会議の充実を図り、サービスの向上に活かしてほしい。
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	研修などに参加し事業所の問題点があれば相談し協力を仰いでいるが、昨年に関してはほぼ書面でのやり取りのみであった。	日頃から市保健福祉課や地域包括支援センター職員と連携を密に図っている。相続問題や経済的虐待のケースでは、専門機関と連携を取りながら適切に対応している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや、研修に参加し職員全員に理解を周知徹底している。やむを得ず、身体拘束をする場合は身体拘束廃止委員会で話し合い、緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知することで身体拘束を行いケアに努めている。	3ヶ月に1回、身体拘束廃止委員会を開催し、個別の対応について身体拘束にならないようにチェックを行っている。また、年1回、外部研修への参加や内部での職員研修の機会を設けている。日頃から管理者は声かけがスピーチロックにつながらないように職員へ指導、助言を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対して意識の共有を図り、お互いの言動などにも注意するなどして、虐待防止に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修に参加し、勉強会にて職員間で権利擁護に関する情報共有を行い、必要性がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。	年1回、職員は外部研修を受講し、受講者は事業所内でフィードバックしている。利用者、家族へは契約時に制度などの説明を行っており、必要時は専門機関の関係者と連携し支援している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際より、事業所の運営理念を説明し、質問等を伺い十分に納得を得てから契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントなどに家族の参加を募りコミュニケーションを図りながら、意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めているが、コロナ禍においては家族の参加が難しく、電話や通信などで状況報告を行い、家族からの意見や要望は職場会議で情報を共有し実施、運営に反映できるよう努めている。	日頃から職員は利用者の思いを聞くように努め、外出や食事の内容に反映している。家族の意見、要望については、コロナ禍においても窓越しでの面会を継続しており、家族の来訪時に意見を聞くようにしている。日頃からケアマネジャーがこまめに電話連絡を行い、信頼関係を築き、家族も安心感を持たれている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、定期的にミーティングや勉強会、ケースカンファレンスを行ったり、連絡ノート、思い付きノートなどを通じ職員の意見や提案を聞き、運営の質の向上に努めている。また、企業全体では、四か月に一回の全体会議を行い勉強会、情報交換を行っている。	「思いつきノート」を設置しており、職員は入居者の様子や業務について気付いたことを記入している。内容によっては、職場会議や主任会議で検討し、業務改善が図られている。現場職員の意見が反映される仕組みがあり、働きやすい職場環境が作られている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を把握し働きやすい環境を作るように努めている。有給休暇が取りにくいなどの問題があったが、皆が平等に休暇がとれるよう改善した。また、年に一回ストレスチェックを実施し問題点を把握し改善に向けて努力している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力を理解し、その能力が十分に発揮できるように努めている。	性別や年齢に関係なく採用が行われており、20代から70代まで幅広い年齢層の職員が勤務している。スキルアップのための研修機会があり、適材適所に配属されている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や定期的に勉強会を行い、人権について学ぶ機会を設けている。	年1回、職員は外部研修を受講し、受講者は事業所内でフィードバックしている。日頃から管理者が現場に入り、声かけの内容について、指導や助言が行われている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員としての質の向上や、ケアの質の向上の為、定期的な勉強会及び外部研修に積極的に参加している。既存社員には再確認の為、新入社員に対しては企業方針などの教育の為に、企業全体の会議を年3回実施し、情報交換や勉強会を行いスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで、同業者との交流を図っていたが、研修がリモートになり交流を図ることが難しくなった。しかし、企業内においては全体会議導入において他の部署との交流は増えた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の個性を把握し傾聴受容の姿勢で安心して生活していただけるように努めている。また、多数ではなく、1対1での対話の機会を作るように心掛け、安心できる人づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望を把握し、安心できるよう連絡を密にとり、信頼関係を築けるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、情報収集に努め求めている事を把握することで、支援につなげていく。また、福祉用具など、本人の機能や能力に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における動作、食事の後片づけや掃除、洗濯物干し洗濯物たたみなど出来る機能を低下させない程度に、職員と共に行い協同者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においては家族の面会やイベント参加が難しい為、電話やきずな通信、きずなブログ等で、情報の提供や情報交換を積極的に行い、家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、今まで通っていた理髪店の利用などは出来なくなったが、なじみの場所へのドライブや買い物等は継続して行っている。	入居時に馴染みの関係や場所について聞き取り、入居後も継続できるように支援している。老人会や近所の知人、教会の方との関係が継続しているケースがある。また、外出時は馴染みの場所を訪れるなど積極的に働きかけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握し、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にできるように努めている。毎月一つの作品を分担して完成させることで、共同達成感を味わって頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時に於いての電話連絡等、フォローを行っている。また、退所時には、滞在中の写真のプレゼントを行うなどしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴を把握し本人の能力、心身状態に合わせたケアを行える様に努めている。	職員は利用者の表情や行動等から真意を推し測ったり、確認したりし、職員間で情報共有している。また、勤務年数が長い職員が多く、介護に熟練しており、言語、非言語の意思疎通に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取りケアに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し本人のペースに合わせてケアを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンス、モニタリングを行い本人の状態や家族の希望を把握し計画を作成している。	利用者の担当職員は決められているが、担当以外の職員の意見も取り入れて、利用者、家族、施設長、ケアマネジャーが参加したカンファレンスを開き、ケアプランを作成している。利用者の状態変化に応じて柔軟にケアプランの見直しが行われている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに介護記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有しケアに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出、外泊等は、コロナ禍の為実施できていないが、個々にあったりハビリ、レクリエーション、医療連携等、柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で出来る範囲で、近隣の公園への散歩や、コンビニでの買い物、地域交流センターの文化祭参加などを行うことで地域資源の活用、交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によるかかりつけ医の確保、定期受診等適宜支援している。	内科医、歯科医が利用者の容態に応じて、ほぼ一週間に一度、往診を行っている。内科以外の受診に関しては、受診内容に応じて職員もしくは家族が付き添い、結果は相互に情報交換が行われている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院中から退院までは医療連携室と密な連絡を取りあっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師、看護師等が常に話し合いの出来る環境整えている。	重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針が明文化されており、利用者、家族、施設長、職員、医師、看護師が連携して支援する体制が整っている。家族の心の支え、葬儀等へのアドバイスも必要に応じて行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加、勉強会を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し見るところに貼っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っているが、地域との協力体制は構築できていない。	年3回、夜間想定を含む避難訓練を行っており、近隣住民へも参加を呼びかけている。出火場所を複数想定して訓練が行われている。その他の災害についても消防署と相談している。非常用食料、飲料水、各種備品は最低3日分を揃えている。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の出来る事を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努める。利用者様を尊重する気持ちを大切にするとともに、職員同士が注意しあえる仲間づくりをめざし、介護者としてあるべき姿を常に心がけるように努めている。	プライバシーに関して外部、内部の研修で学び、全職員で検討を加えている。施設長は勤務のローテーションに加わっており、職員の利用者への対応については、言葉だけでなく、介護実践を通して対応を促している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身が自己決定できるように、状況や場面づくりに努めている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはきまっているが、一人一人の想いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣、好みに合わせて、本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には職員が気温や季節感を考慮し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間ごとに献立表を張り出し、利用者様に見て頂いたり、季節弁当も利用している。また、裏庭で作っている野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節感を味わって頂いている。食後はテーブル拭きや、お盆、食器拭き等の役割を決めて一緒に片付けを行っている。	食事の際は、職員は介助に専念し、食事の後片付けは利用者職員が行っている。毎月1日には行事弁当と一緒に食している。利用者、職員が協力して色々な野菜を栽培しており、食卓に並べている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状況に応じた食事形態を提供し食べる量や栄養のバランスを考え補助食品等も導入している。水分もチェックを行い一日1000mlは摂れるよう援助している。アレルギー対応も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。又週に一度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。また、失禁しない様紙パンツに頼るのではなく、布パンツに戻し機能の後退を防ぐなど試みている。	排泄チェック表、バイタルを記録し、トイレ誘導を行っている。パットの使用に関しても、よく検討を加えている。リハビリパンツからパット使用の布パンツ、そして布パンツへの改善事例がある。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給や本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、こんにやくライスの使用を試みたり、腹部マッサージや便秘体操を取り入れるなどし、状態に応じ医師処方薬の緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に週二回の入浴を行っている。入浴拒否がある場合は無理強いをせず、本人のペースに沿ったケアを行っている。時には入浴剤の使用や、季節感を味わうために、菖蒲湯やミカン風呂なども行っている。	週2回、午前中に入浴支援を行っているが、月曜日から土曜日まで入浴が可能な体制を整えている。入浴を望まない利用者には、馴染みの職員による声かけや対応の工夫によって入浴に導いている。	原則週2回、午前中と回数や時間を定めず、利用者が入浴したい日、時間に合わせて入浴できるよう期待したい。
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄交換を行い常に気持ちよく入眠できるよう援助している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し作用副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で何度も確認し誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて薬の形態もその人に合ったものを選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、メダカの餌やりなど個々の能力に応じた役割を持っていただき日々やりがいを感じられるように配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が外出したい場合は家族の協力を仰いだり、毎月の行事でお花見ドライブに行ったり、コロナ禍で出来る範囲で外出を心掛け、職員が短時間でも付き添い外出できるよう支援している。	四季折々の花見や紅葉見物等を毎月行っている。また、概ね週一回の病院受診の際には、馴染みの場所を経由してドライブを行っている。散歩は毎日しており、近隣住民との会話も楽しみの一つになっている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理しているがコンビニ等に行った際はご自分で支払いできるように介助している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親族からの電話等はプライバシーを保ちながら対応している。また、携帯を持っている利用者様には自由に遣って頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を利用者様と共に作成して飾ったり、家庭的な雰囲気を感じて頂ける工夫をするように努めている。また、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。コロナ禍においては空間除菌や施設内の拭き取り消毒等も行っている。	季節に応じて下げ物や貼り絵を利用者、職員が協働で作成している。温度、湿度も職員によって管理されて、快適な環境が保たれている。近隣住民の管理地に、事業所に見えるように季節に応じた花を住民が植えてくれている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性などを考慮しその都度配置対応し、好きなことができる様に、それぞれの居場所づくりを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているなじみの家具や物品、お仏壇などを居室に配置し落ち行い過ごせる空間作りに努めている。	家具、テレビ、仏壇等、利用者の大切な品々が居室に持ちこまれており、在宅での生活の香りが漂う居室空間になっている。故人の命日には、利用者に職員が付き添ってお供え物、花を購入する支援もされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー、物の場所など出来る限り自分の力で生活できる空間作りをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念の利用者様のやりたい時にやりたい事や思いを理解する介護。また、身体拘束を行わず地域活動に積極的に参加する理念を挙げ実践できるように日々努力している。しかし、コロナ禍においては思うようにできていないところもある。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍においても、地域のラーメン出張販売や、バナナのたたき売り、バンドの演奏など感染防止対策の協力を得ながら交流を図ることができた。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為窓越しではあるが、ご家族の面会時には必ず現状をお伝えし、認知症の人の理解や支援を行って頂くようコミュニケーションを図っている。さらに面会に出来ないご家族向けにブログにご利用者様の写真を載せるなどして元気な姿を見て頂いている。また、認知症の方にも、できること知って頂くため、制作物などを、地域の文化祭に展示したり、地域交流センターの写真コンテストなどに参加したりしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一回開催のため、二か月間の状況報告と、対応に困っている事などを相談し意見やアドバイスをもらいサービスの向上に努めている。また、地域の方を取り込むにはどうすればいいか等、アドバイスをもらっている。緊急事態宣言が解除になった月にはご家族の参加やご利用者様の参加も実施できていた。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	研修などに参加し事業所の問題点があれば相談し協力を仰いでいるが、昨年に関してはほぼ書面でのやり取りのみであった。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の取り組みや、研修に参加し職員全員に理解を周知徹底している。やむを得ず、身体拘束をする場合は身体拘束廃止委員会で話し合い、緊急性、非代替性、一時性などの原則を周知することで身体拘束を行いケアに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修の参加や勉強会を行い、職員間で虐待防止に対して意識の共有を図り、お互いの言動などにも注意するなどして、虐待防止に努めている。毎年1回虐待防止のチェックリストを実施に向けて担当者が試作している。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に研修に参加し、勉強会にて職員間で権利擁護に関する情報の共有を行い、必要性がある場合は、関係者と話し合いそれらを活用できるよう支援している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前の見学の際より、事業所の運営理念を説明し、質問等を伺い十分に納得を得てから契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行っているイベントなどに家族の参加を募りコミュニケーションを図りながら、意見や要望を表出しやすい関係づくりに努めているが、コロナ禍においては家族の参加が難しく、電話や通信などで状況報告を行い、家族からの意見や要望は職場会議で情報を共有し実施、運営に反映できるよう努めている。また、ブログへのコメントでのやり取りも行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内においては、定期的にミーティングや勉強会、ケースカンファレンスを行ったり、連絡ノート、思い付きノートなどを通じ職員の意見や提案を聞き、運営の質の向上に努めている。また、企業全体では、四か月に一回の全体会議を行い勉強会、情報交換を行っている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個々の特性を把握し働きやすい環境を作れるように努めている。有給休暇が取りにくいなどの問題があったが、皆が平等に休暇がとれるよう改善した。また、年に一回ストレスチェックを実施し問題点を把握し改善に向けて努力している。職員の努力や実績がわずかながらも評価されていると思われる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢、性別に関係なく、職員の個々の特性、能力、体力を理解し、その能力が十分に発揮できるように努めている。また、男性職員の育児休暇も取得できるようになった。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修への参加や定期的に勉強会を行い、人権について学ぶ機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員としての質の向上や、ケアの質の向上の為、定期的な勉強会及び外部研修に積極的に参加している。既存社員には再確認の為、新入社員に対しては企業方針などの教育の為に、企業全体の会議を年3回実施し、情報交換や勉強会を行いスキルアップに取り組んでいる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで、同業者との交流を図っていたが、研修がリモートになり交流を図ることが難しくなった。しかし、企業内においては全体会議導入において他の部署との交流は増えた。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の個性を把握し傾聴受容の姿勢で安心して生活していただけるように努めている。また、多数ではなく、1対1での対話の機会を作るように心掛け、安心できる人づくりに努めている。こもれびユニットにおいては、グループラインを作り、情報の共有を図っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の不安や要望を把握し、安心できるよう連絡を密にとり、信頼関係を築けるよう努めている。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の話を傾聴し、情報収集に努め求めている事を把握することで、支援につなげていく。また、福祉用具など、本人の機能や能力に応じたサービスを提供できるよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活における動作、食事の後片づけや掃除、洗濯物干し洗濯物たたみなど出来る機能を低下させない程度に、職員と共に行い協同者の関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍においては家族の面会やイベント参加が難しい為、電話やきずな通信、きずなブログ等で、情報の提供や情報交換を積極的に行い、家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、今まで通っていた理髪店の利用などは出来なくなったが、なじみの場所へのドライブや買い物等は継続して行っている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や状態を職員が周知把握し、利用者様同士のコミュニケーションが円滑にできるように努めている。毎月一つの作品を分担して完成させることで、共同達成感を味わって頂いている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時に於いての電話連絡等、フォローを行っている。また、退所時には、滞在中の写真のプレゼントを行うなどしている。退所後にも時折ご家族が訪問したり、紹介していただくなどしている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の生活歴を把握し本人の能力、心身状態に合わせたケアを行える様に努めている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から生活歴を聞き取りケアに反映させている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の一日の生活パターンを把握し本人のペースに合わせてケアを実践している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンス、モニタリングを行い本人の状態や家族の希望を把握し計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態や発言をありのままに介護記録に残し、利用者様の心身状態や変化を職員間で共有しケアに反映させている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との外食、外出、外泊等は、コロナ禍の為実施できていないが、個々にあったりハビリ、レクリエーション、医療連携等、柔軟な支援、サービスに取り組んでいる。また、家族も高齢であることから、家族フォローにも配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で出来る範囲で、近隣の公園への散策や、コンビニでの買い物、地域交流センターの文化祭参加などを行うことで地域資源の活用、交流を図っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望によるかかりつけ医の確保、定期受診等適宜支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は利用者様の状態や変化を看護職に報告し情報共有に努め又対応や処置の指導などを受けている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が受診又は入院する時は病院に看護介護添書を渡し情報の共有を図っている。また、入院中から退院までは医療連携室と密な連絡を取りあっている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に関して、家族、医師、看護師等が常に話し合いの出来る環境整えている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修の参加、勉強会を行い、事故発生に備え対応できるように努めている。また、事故発生時の対応をマニュアル化し見るところに貼っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、備蓄品の確保等を行っている。また、災害についての勉強会も行っているが、地域との協力体制は構築できていない。備蓄品の見直しや定期的な物資の入れ替えも行っている。地震の対策（落下物）なども進めるよう努めたい。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の出来る事を尊重し、それぞれの方のプライバシーを守り、接遇の徹底に努める。利用者様を尊重する気持ちを大切にするとともに、職員同士が注意しあえる仲間づくりをめざし、介護者としてあるべき姿を常に心がけるように努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様自身が自己決定できるように、状況や場面づくりに努めている。しかし、年々認知機能の低下により言葉の理解ができない方も増えており、日々の観察の中から職員が推測することも増えてきた。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールはきまっているが、一人一人の想いや、その人らしいライフスタイルを尊重しながら支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個々の生活習慣、好みに合わせて、本人の意思で行っている。自己決定が困難な方には職員が気温や季節感を考慮し支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	1週間ごとに献立表を張り出し、利用者様に見て頂いたり、季節弁当も利用している。また、裏庭で作っている野菜と一緒に収穫し食事に添えるなどして季節感を味わって頂いている。食後はテーブル拭きや、お盆、食器拭き等の役割を決めて一緒に片付けを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取状況に応じた食事形態を提供し食べる量や栄養のバランスを考え補助食品等も導入している。水分もチェックを行い一日1000mlは摂れるよう援助している。アレルギー対応も行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケア及び義歯の洗浄を行い、口腔内の清潔、異常の早期発見に努めている。又週に一度訪問歯科を利用し口腔ケアの指導や情報の交換を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握して定時声掛けや誘導を行っている。また、失禁しない様紙パンツに頼るのではなく、布パンツに戻し機能の後退を防ぐなど試みている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	多めの水分補給や本人の好みの乳酸菌飲料を摂取したり、こんにやくライスの使用を試みたり、腹部マッサージや便秘体操を取り入れるなどし、状態に応じ医師処方 of 緩下剤の服用を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	基本的に週二回の入浴を行っている。入浴拒否がある場合は無理強いをせず、本人のペースに沿ったケアを行っている。時には入浴剤の使用や、季節感を味わうために、菖蒲湯やミカン風呂なども行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や照明の工夫、寝具の定期的な洗浄交換を行い常に気持ちよく入眠できるよう援助している。年に2回くらいは害虫駆除も必要かと思われる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬情を常に確認できる場所に保管し作用副作用を職員間で共有するように努めている。また、薬のセットは数人で何度も確認し誤薬防止に努めている。嚥下の状態に応じて薬の形態もその人に合ったものを選別している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、花の水やり、メダカの餌やりなど個々の能力に応じた役割を持っていただき日々やりがいを感じられるように配慮している。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が外出したい場合は家族の協力を仰いだり、毎月の行事でお花見ドライブに行ったり、コロナ禍で出来る範囲で外出を心掛け、職員が短時間でも付き添い外出できるよう支援している。コロナワクチンの集団接種の際にはご家族の協力も得られ、スムーズに2回の接種を終了できた。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は基本的にホームで管理しているがコンビニ等に行った際はご自分で支払いできるように介助している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、親族からの電話等はプライバシーを保ちながら対応している。また、携帯を持っている利用者様には自由に遣って頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある作品を利用者様と共に作成して飾ったり、家庭的な雰囲気を感じて頂ける工夫をするように努めている。また、日頃から臭いの無い空間づくりに配慮している。コロナ禍においては空間除菌や施設内の拭き取り消毒等も行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様の性格や相性などを考慮しその都度配置対応し、好きなことができる様に、それぞれの居場所づくりを行っている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔から使っているなじみの家具や物品、お仏壇などを居室に配置し落ち行いて過ごせる空間作りに努めている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置やバリアフリー、物の場所など出来る限り自分の力で生活できる空間作りをしている。また、転倒の危険性がある方には転倒防止の為センサーなどの工夫も行い、常に援助が出来る環境づくりを図っている。こもればユニットにおいては毎月安全点検を実施している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない



項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		